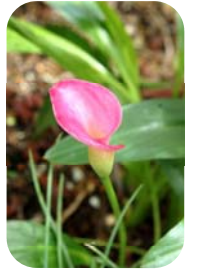


井原市議会6月定例会で、森本議員が、みなさんから寄せたいご意見やご要望を11件質問しました。その中で、瀧本市長や片山教育長の答弁で右のことが実現することになりましたので、お知らせいたします。

- 幼稚園、小学校、中学校の施設で、トイレが洋式化されていない体育館は、本年度中に改造工事が実施されます。  
職員用トイレで、洋式化されていない箇所は、幼稚園で13園中8園、小学校で13校中7校、中学校で5校中1校。  
今後、各園各校とも洋式トイレを一基以上設置するよう積極的に取り組まれます。
- 井原市の「地域防災計画」は、県の見直し計画を踏まえ、平成24年度の早い段階で見直されます。
- 相原公園の桜で、今後、回復の見込みのない桜については、他の桜の状況を見極めながら伐採処分し、年次計画で植栽されます。  
約300本のうち樹勢が衰えているのが200本程度。高さが約3mから3.5m位の桜20本程度が本年度で植え替えられます。
- 井原駅周辺のバス乗り場の滑り止めは、早急に全面補修されます。ブロックの補修、階段踊り場の段差の補修は、今年度中に補修されます。駅周辺の施設の点検は早急に実施されます。
- 井原市へ観光に来られた観光客のために、国道・県道と接続している市道の交差点や美星町の青空市や、青野町葡萄浪漫館などの観光施設から他市への接続となる市道の主要交差点に年次的に案内標識が設置されます。
- 幼稚園への3歳児の受け入れについては、平成21年3月に「井原市就学前教育検討委員会」において「幼稚園における3歳児教育の重要性に鑑み、導入を進めるよう」答申を受け、実施・拡大にむけて検討・協議が進められました。  
平成24年度より施設、設備、人員配置等が整った園から順次実施されます。出部幼稚園については新築（来年2月完成予定）しますので、それに合わせて新年度から募集されます。
- 市民ギャラリーの催し物のPRについては、年4回発行している「いばら文化協会だより」を「広報いばら」に折り込んでいます。  
今後は、市のホームページや、市の毎月の催しを知らせるチラシ、市民ギャラリーイベント情報を公共文化施設に掲示するなどして、今まで以上に積極的に市民の皆様に情報提供されます。



## 井原市政に対するご意見・ご要望をお寄せください

井原市議会平成23年9月定例会の開会予定日は9月5日(月)です。皆様の井原市政に対するご意見・ご要望をお近くの党员か下記の電話・FAXにお気軽にお寄せください。皆様のご意見・ご要望が1つでも多く実現するよう、引き続き奮闘したいと考えています。

日本共産党後援会事務所 TEL 62-6200 FAX 62-6209  
森本ふみお宅 TEL 62-6061 FAX 62-6081

周りの人に「日本共産党森本ふみお後援会」への入会をお勧めください。

# 日本共産党はこう考えます

しんぶん赤旗  
「主張」より

## 熱中症防止 暑さ我慢せず、十分な対策を

6月も下旬になり、各地で気温が30度を超す日も出始めています。懸念されるのは、昨年大きな被害を出した熱中症の再来です。暑さ対策をとり、被害を防ぐことが、いまから必要です。

とりわけ今年は、東京電力福島原発の事故で「電力不足」が予想されるため、節電のために冷房を控える動きも強まっています。冷房の効かせすぎなど、電力の浪費を防ぐ対策はもちろん必要ですが、そのために必要な暑さ対策をおこなわず、熱中症で健康を損なうなどというのは本末転倒です。

### 恐ろしさを軽視せず

熱中症は高温に長くさらされ、体の水分や塩分のバランスが崩れて起こる症状です。意識を失い、最悪の場合亡くなることもあり、症状が回復したあとも内臓などに影響が残ります。昔からよく知られている病気だからと、軽視しないことが大切です。

昨年は6月の梅雨明け以降気温が一気に上がり、最高気温が35度を超す「猛暑日」や、夜になっても気温が25度以下に下がらない「熱帯夜」が続いたため、熱中症の被害が相次ぎました。消防庁の調べでは、昨年7～9月に、熱中症の疑いで救急車が搬送した人は全国で5万3843人にのぼり、高齢者を中心に亡くなる人が各地で相次ぎました。

かつて熱中症は、炎天下、屋外での農作業やスポーツなどをする人、溶鉱炉など高温の作業所で働く人に多いといわれてきました。ところが最近では、屋内でも、窓を閉め切り、換気をおこなわなかったなどで熱中症にかかる例が相次いでいます。実際、昨年熱中症で亡くなったかなりのケースが、高齢者や幼児がエアコンもつけず、窓も閉め切ったままで寝ていて亡くなっています。日常生活での注意が求められます。

環境省や厚生労働省は、熱中症は、予防法を知っていれば防ぐことができるといいます。暑さを避ける、服装を工夫する、こまめに水分や塩分を補給する、とくに急に暑くなりそうな日は注意するなどです。ふだんから暑さにそなえた体力づくりに取り組み、二日酔いや寝不足、食事抜きなどを防ぐことも重要です。



気温の変化が感じにくいといわれる高齢者や寝たきりの人、体温が十分調節できない幼児などに対しては、周りの人の注意が重要です。昨年の異常な暑さの中では、学校や高齢者の部屋にエアコンを設置するための公的な援助や、暑い日中、高齢者などが避難できる公共施設の開放などが課題になりました。熱中症に備え、いまから準備することが必要です。

### 節電も行き過ぎないで

今年とりわけ心配されるのは、「電力不足」のキャンペーンが強まるなかで、節電のために冷房などを控える傾向が強まっていることです。節電はもちろん必要ですが、節電を呼びかける政府の文書も、「行き過ぎた節電は、熱中症等の健康被害を生じるおそれもあるため…健康への配慮等についても十分周知する」と注意を喚起しています。行き過ぎは禁物です。

もともと一般の家庭での電力消費は、企業などの大口需要家に比べて、それほど大きいわけではありません。ほんとうの節電のためには、夜中まで働かせ、「24時間型社会」を押し付けている、エネルギー浪費社会を見直すべきです。

この「後援会ニュース」は森本ふみお議員の  
ブログ (<http://jcp-seibu.sakura.ne.jp/morimoto/>) でも見れます。

ご意見・ご要望および情報をお気軽にお聞かせください。